

広葉樹林の安全な整備作業

7月18日 実習主体の安全技術講習会

落葉広葉樹林の整備における里山安全技術講習会が、平成 27 年 7 月 18 日、「おとずれ山の会」と「千葉県里山林保全整備推進地域協議会」の共催（協力：ちば里山センター）で行われました。テーマは、「落葉広葉樹林の整備」で、主として“かかり木への対応”が中心。会場は「おとずれ山の会」のフィールドのひとつ市原市天羽田の市有林。講師は木村正敏氏（千葉県森林組合事業課長）。



かかり木にならない工夫 受講者は千葉県で活動する里山団体から 20 名。最初に木村講師からの森林整備の安全作業（刈払いと伐木）の基本についての講義が行われました。



実習では、まず整備の基本である「刈払い作業」が個別指導により行われました。続いて、とくに広葉樹の伐倒で起こりやすいかかり木を避ける方法のひとつとして、ロープを使用する方法が岡部正史支援スタッフから紹介され、実演が行われました。

かかった時こそ基本に戻れ また、万一、かかってしまった時は、決して安易な“元玉切り”などによることなく、木回し（フェリングレバー）や滑車・ウインチを適切に使うなど、冷静な対応が必要であることが強調されました。

写真㊸ 安全作業の基本について講義（中央が木村講師）

写真㊹ 刈払い作業者の間隔は十分に開ける（5m以上）

写真㊺ 架かった樹木をチルホールで牽引



受講者の感想「伐倒方向を誘導するためのスローラインによるロープ取り付け方法やかかり木をつくって処理するという講習は、非常に有意義で参考になりました。実際の活動に大いに活かしてゆきたいと思います。」

「里山カレッジ」も安全を重視

安全講習会は、ちば里山カレッジのカリキュラムにも組み込まれており、8 月 22 日（里山ボランティア養成コース、千葉県緑化推進拠点）、9 月 5 日（同、君津市、ちば森林資源コンサーブ）に、それぞれ講義や実習が行われました。



里山林保全整備推進地域協議

会の事務局長でもある当センター伊藤理事は、「林野庁からの通達もあり、安全には重ねて注意を喚起しているところです。安全講習会はこれからも継続して開催しますので里山団体の皆さんの意欲的な参加を期待します。」と語っています。

写真㊻ 太田勝男講師（林災防専務理事）から刈払い機の操作の説明を受ける受講生の皆さん